

2026年3月5日(木)  
Charleston Conference Asia 2026参加報告会

# Charleston Conference Asia 2026 参加報告

鳥取大学附属図書館 / 国立大学図書館協会資料委員会作業部会

杉田佳凜

- 自己紹介
- CCA2026参加に向けて
  - 事業目的
  - 個人的な関心
- セッション紹介1
  - Diamond Open Access: Publishing Without Paywalls or Profits
- セッション紹介2
  - The importance of metadata for Asian scholarship
  - A Decade of Open Data: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia
- 今後に向けて

- 鳥取大学附属図書館 学術情報係 係員
- 現在の担当業務は電子資料の契約補助や管理、各種講習会など
- 所属系の業務にリポジトリの管理運営も含む
- 国立大学図書館協会資料委員会作業部会員(国際グループほか)
- Charleston Conference Asia 2026が初の海外出張

- 1. アジア・太平洋地域におけるオープンサイエンスの動向についての情報収集**
  - 現時点では十分に把握できているとは言えないアジア・太平洋地域の情報収集。
  - 各種OAモデル、生成AIの可能性とリスク、オープンメタデータなど国際的に注目されるトピックについての知見の獲得。
- 2. 国や地域、業種を超えた横断的な連携・協働体制の土台構築**
  - オープンサイエンス推進における分野・職種横断的な国内連携のあり方の模索。
  - アジア・太平洋地域での国際的な協力の可能性の模索。
  - 出版社の立場や見解を把握することで、新たな学術情報流通のあり方を模索する手掛かりとする。
- 3. 国内ネットワークの強化**
  - 日本の出版社およびベンダー等からの参加者との対話。

- 学術資源をどう確保していくべき？
  - 特に海外の電子リソースは契約額が年々上がるが予算が増えていくわけではない。
  - 海外ではどうしている？
  - 自分に何ができるか、学術情報流通の望ましい形とは何か。
- 学術書のOA
  - OA = 論文/研究データについては活動が活発だが……
- 機関リポジトリの役割
- 生成AIとどう付き合っていくか
  - リテラシー教育、研究活用……

## 【キーワード】

- オープンアクセス
- ダイヤモンドOA
- S2O
- 転換契約
- ……

転換契約の話題はほとんど見聞きせず。  
“オープン”が圧倒的。

26日	<p style="text-align: center;">(プレカンファレンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">AI</a>-Powered Search in Libraries: A Crash Course on understanding the fundamentals for Library Professionals</li> <li>• <a href="#">Diamond Open Access</a>: Publishing Without Paywalls or Profits</li> </ul>
27日	<p style="text-align: center;">(本会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Opening Keynote: Asia in the Climate Change Landscape</li> <li>• Transforming Academic Libraries with <a href="#">AI</a>: The Taiwan Experience in Literacy, Services, Knowledge Organization, and Competencies</li> <li>• Global Equity in the Shift to <a href="#">Open Access</a>: A Focus on the Asia-Pacific Region</li> <li>• Advancing Equity in the <a href="#">Open Access</a> Transition: Perspectives from Asia</li> <li>• Keynote Presentation: India's ONOS and beyond: Equitable access to knowledge resources</li> </ul>
28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Keynote Presentation: Strategies and Practices of Library Alliances in Building an Equitable Knowledge Ecosystem</li> <li>• <a href="#">Open Access</a> Books in Asia - What's the status?</li> <li>• <a href="#">The importance of metadata for Asian scholarship</a></li> <li>• <a href="#">A Decade of Open Data</a>: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia</li> </ul>

### • どんなセッション？

- ダイヤモンドOAの歴史や課題、今後のトレンドなどを概観的に扱う。
- 講師 Prof. Dr. Muhammad Imtiaz Subhani  
(XploreOpen Founder / Executive Director)
- 受講生は5人程度。

受講生が少なくて驚き。  
AI文献探索コースは数十人いた。

### • 紹介する理由

- 今後に向けて考えたいことが多い。
- ダイヤモンドOA推進は重要な一方で課題も多い。

\* XploreOpen <https://xploreopen.org/>

パキスタンを拠点とする非営利団体。グローバル・サウスからオープンサイエンスを推進する。

### 0. ダイヤモンドOAとは

#### 【本セッションより】

- 無料: 著者がAPCを支払うことも読者が購読料を支払うこともない。
- ガバナンス: 学術機関主導。商業的利害関係者ではなく、学術コミュニティによって意思決定が行われる。
- 価値の照準: 利益よりもコミュニティを優先することで、ユネスコのオープンサイエンス勧告を直接支持する。

#### 【“Action Plan for Diamond Open Access”日本語訳より】

「ダイヤモンド」オープンアクセスとは、ジャーナルやプラットフォームが著者にも読者にも料金を請求しない学術出版モデルを指す。ダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルは、コミュニティが主導し、学術界が主導・所有する出版イニシアティブを代表する。

### 0. ダイヤモンドOAとは

#### 1. お金の話だけではないダイヤモンドOA

##### 【今回セッションより】

- 無料: 著者がAPCを支払うことも読者が購読料を支払うこともない。
- ガバナンス: 学術機関主導。商業的利害関係者ではなく、学術コミュニティによって意思決定が行われる。
- 価値の照準: 利益よりもコミュニティを優先することで、ユネスコのオープンサイエンス勧告を直接支持する。

##### 【「ダイヤモンド・オープンアクセスのための行動計画」の日本語訳より】

「ダイヤモンド」オープンアクセスとは、ジャーナルやプラットフォームが著者にも読者にも料金を請求しない学術出版モデルを指す。ダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルは、コミュニティが主導し、学術界が主導・所有する出版イニシアティブを代表する。

### 0. ダイヤモンドOAとは

#### 1. お金の話だけではないダイヤモンドOA

##### **【狭き門としての“ダイヤモンドOA”？】**

- 「ダイヤモンドOA」を最も公平で包括性のあるジャーナルとして目指すべき……という話をするとき、学術機関主導ではない商業ジャーナルを外側に置いてしまっているのか？
  - 費用負担の話とその他の基準を切り離して議論する？
- 「DIAMAS」と「CRAFT-OA」が定めるダイヤモンドOAジャーナルの6基準

##### **【ダイヤモンドOAではない、APC徴収のないOAジャーナル？】**

- 学会誌・機関誌・紀要などをどう考えていくか。

「ダイヤモンド」オープンアクセスとは、ジャーナルやプラットフォームが著者にも読者にも料金を請求しない学術出版モデルを指す。ダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルは、コミュニティが主導し、学術界が主導・所有する出版イニシアティブを代表する。

### 2. 資金モデルの課題について

- 様々な資金モデル:  
機関補助金 / 図書館による出版 / S2O(Subscribe to Open) / 公的資金
- 現状では赤字がほとんど。
- 支出の赤字とは別にボランティアに支えられていることも。
  - 編集作業や査読などの資金以外の負担/支援
- サービスではなくコモンズとしてのダイヤモンドOA
  - 商業モデルから離れることでダイヤモンドOAは最も効果的になる

### 2. 資金モデルの課題について

- **S2O(Subscribe to Open)**

購読モデルをベースに、一定以上の購読機関(金額)が確保された場合に当該年の発行分がOA化するモデル。OAジャーナルとして発行された巻号は、翌年以降もOAのままである。購読機関が一定数に達しなかった場合、一般的な購読ジャーナルと同じ扱いになる。論文投稿者がAPCを支払う必要はない。

- **OAPEN(単行書OAを推進する欧州コンソーシアム)の資金モデル例**

購読料ではなく賛助金として図書館などから資金を募る。賛助金を支払いがなくても資料の閲覧は可能。賛助金の拠出機関は利用統計などのサービスが受けられるようになる。なおOAブックを刊行する出版社は出版料を支払う必要がある。

### 3. ダイヤモンドOA推進のために今ここから何ができるか？

- 周りの研究者たちにダイヤモンドOAを知ってもらえているか。
- “ダイヤモンドOA”ではなくとも大学出版物への働きかけができるのでは。
- “ダイヤモンドOA”推進のなかで商業ジャーナルとどう向き合うべきか。
- みんなのためのダイヤモンドOA推進という視座。

## セッション紹介2

The importance of metadata for Asian scholarship

A Decade of Open Data: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia

- どんなセッション？

- The importance of metadata for Asian scholarship

- 4人のパネリストによる発表

- (Crossref / インドネシアのOAジャーナル / タイ学术界の状況 / アジアでのオープンメタデータの活用)

- A Decade of Open Data: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia

- Mark Hahnel (Digital Science社Open Research担当副社長 / Figshare創設者)
    - Bella Ratmelia (Singapore Management University Libraries)

- 紹介したい理由

- 学術情報が“オープンである”とはどのような状態を指すのか再考するきっかけに。

## セッション紹介2

### The importance of metadata for Asian scholarship

#### A Decade of Open Data: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia

- Mochammad Tanzil Multazam (Muhammadiyah Sidoarjo大学図書館館長)によるインドネシアのOAジャーナルの現状についての発表
- インドネシアではOAジャーナルの出版が盛ん。メタデータを通じて適切に補足できる状態か？
  - OAI-PMHハーベストで国際的な可視性を確保しているが、基本的なメタデータしか対象に含まれない。
    - \* OAI-PMH: データの自動収集によってメタデータを交換するためのプロトコル。
  - OAコンテンツのPDFが機械可読性を保証しているとは限らない
    - 構造化されているか？ メタデータ情報を含んでいるか？
  - OAジャーナルの約半分がDOIを持っているが、有用なDOIはごく一部。

自分たちが“オープン”にしている文献はどうだろう？ 何がどこまで開かれている？  
DOIは十分有用なものになっている？  
機械可読性について基準やガイドラインを持っているか？ それに沿って運用しているか？

## セッション紹介2

The importance of metadata for Asian scholarship

### A Decade of Open Data: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia

- **Machine-First FAIR** = AIが活用できる形でデータセットが存在することの重要性。人間に対するFAIRさより、機械(AI)に対するFAIRさを守った方が最終的に人間の利益になる。
- 一方で、生成AIで利用されることそのものが研究者に「データをオープンにしたくない」と思わせているのでは。
  - 中国での調査によれば、データ共有を阻む最大の障壁は「研究で先を越されることの懸念(40%)」

\* FAIR原則: 研究データを「Findable(見つけられる)」、「Accessible(アクセスできる)」、「Interoperable(相互運用できる)」、「Reusable(再利用できる)」状態にするための原則。

“オープン”の宛先としての生成AIなど機械たち。  
AI文献探索ツール各種に日本のOA論文はどの程度含まれている？  
日本におけるFAIR原則の浸透率や順守率は？

- “オープン”に対する意識の変化
  - 学術情報流通の仕組み全体としての“オープン”
  - その一部としての日本/自機関/自分
  - 人間の読者だけでなく生成AIも“オープン”の宛先に
  - 購読料/投稿料に限らない様々な障壁
- AIの進化と活用
  - 影響にどう対応するか
  - どう活用していくか

## 参考文献

Zoé Ancionほか著、国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会タスクフォース訳  
「ダイヤモンド・オープンアクセスのための行動計画」(<https://www.janul.jp/ja/news/20230830>)

ご清聴  
ありがとうございました